愛媛文教月報

澄心静慮

題字　澄心静慮　　**揮毫**　八幡浜教育会ＯＢ　**二宮　勝美**　　解説は３面

発行所
(公財)愛媛県教育会
〒790-8545
松山市祝谷町１丁目５－33
エスポワール愛媛文教会館内
電話　(089)945－8644
ＦＡＸ　(089)945－1459
E-mail　info@ehime-kyoukukai.jp

(2)学校紹介　三瓶小学校
(3)ふるさとに生きる
(4)(5)特集「私の好きな言葉」
(6)県教育会教育功労賞受賞者
(7)県教育会活動方針・事業計画
(8)ふるさとスケッチ
ローカルトピックス

人たらし

前松山市教育委員会教育委員長
前県市町教育委員会連合会長
金本房夫

私は昭和40年に教師になった。その2年前から司馬遼太郎に出会い惚れこみ、彼が亡くなるまで、４００冊ほど彼の本を購入し、むさぼるように読んできた。司馬遼太郎の人となりを評して「人たらし」という。

司馬さんから便りをもらうと「とてもいい気分にさせてくれる」「意欲をかきたててくれる」というのだ。「人たらし」とは、最高の誉め上手、誉め名人のことである。

私は、日本絵手紙協会を設立した小池邦夫先輩、歌手・坂本冬美さん、子規の俳句にメロディーをつけていただいた新井満さん、演歌の大御所作詞家の池田充男さんなど、多くの異業種の方々と親しくさせていただいているが、これらの方々も、みな「人たらし」である。

たとえば、松山東高の一級先輩の小池さんからの便り。「30年近くも大切にしてくれた人」と絵手紙にある。大切にされ育てていただいたのは私の方である。いつも先輩からの絵手紙で私は奮い立たされるのである。

坂本冬美さんからは毛筆の手紙が、新井満さんや池田充男さんからは直筆の原稿が届いたりする。ありがたいのである。意欲をかきたててくれるのである。まさに「人たらし」の便りである。

ケータイやメールでこと足れる社会は淋しい。小池先輩のように、ぬくもりのある心を時間をかけて絵手紙で届け、いい気分にさせてくれる。感動させてくれる。小池先輩の絵手紙は、まさに現代の文学なのである。

情報社会の到来は、じっくりと「待つ」ことの意味を失わせ、情の乏しい無味乾燥の社会を生みつつあるのではないのか。情報社会の「情報」とは「情に報ゆる」ものでなくてはなるまい。

子どもの心をくみ取り、励まし、時にきびしく、やる気にさせる――そんな「人たらし」の心の充満する教師を育て支援する「人たらし」のＯＢの一員でありたいと思う。

―略　歴―
（かなもと・ふさお）
・昭和40年　北条市立浅海中学校（昭和41年廃校）新採
・平成2年　義務教育課指導主事
・平成7年　中島町立（現松山市立）中島中学校長
・平成12年　松山教育事務所長
・平成15年　中島中学校長定年退職
5月より中島町教育長
松山市教育委員会教育委員長・県市町教育委員会連合会長（平成28年10月退任）

聞響（ぶんきょう）

「令和元年」がスタートした。日本には、世界で最も広く使われている紀年法である「西暦」と、日本固有の「和暦」（邦暦）が併存する。

この和暦の手法自体は、日本を含む東アジアで広く使われてきた。現在は日本のみに残っている。飛鳥時代の孝徳天皇によって、西暦６４５年に制定された「大化」がその始まりである。あの「大化の改新」の大化である。それ以来元号は、15世紀に亘って使われている。それ以降、２３１個制定されてきた（南北朝時代の北朝を含むと２４７）。明治以降、大正、昭和、平成そして令和は、元号法により一世一元の制で、天皇の皇位を継承する際にのみ改められる。それ以前は、不吉なことがあったり、病が流行したりするなどの理由でたびたび改元された。そのほとんどは、1年から長くて10数年の短い期間しか持続しなかった▼さて、あなたにとって平成はどんな時代だったでしょう。そして令和は、どんな時代になるでしょう▼「平成最後の」から「令和最初の」という言葉がたびたび聞かれそうだが、日々の積み重ねが、一つの時代を作っていく。一日一日を大切にしたいものだ。

ひとこと

出会いと学び

愛媛県教育研究協議会
副会長
井伊　重昭

３月に退職を迎え、校長室で後片付けをしている合間に、今までに出会った素晴らしい先生方のことを思い起こすことがありました。

今回「ひとこと」という題で一文を書くとき、自分が校長として無事に教員生活を終えることができたのは、たくさんの先生方との出会いと温かくも厳しい教えがあったからだと改めて思いました。

「子どもがかわいいと思わなくなったら、教師を辞めるときだ。」と教えていただき「生徒指導は、地域の中に住むことが大切だ。」という考えのもと、家族全員で退職するまで常に勤務校の校区に住んでいた先生。「家庭ではしつけ、学校ではしむけ。」と、児童を厳しい中にも温かい目で見つめ、私が遊びで体調を壊したとき「教師たる者、自分の健康管理ができなくてはだめだ。」と厳しい声を私に掛けて戒めてくださった先生。「魅力ある管理職になれ。」「管理職は孤独なものだ。」など管理職としての心構えを教えていただいた先生…等々。

この他にも、たくさんの出会いと教えが自分を育ててくれました。そして、校長として充実した教員生活を無事終えることができました。

今の先生方は、日々の学校生活の中で、自分のしていることに疑問を抱き、自分自身に問いかけ、振り返ってみても、日常の校務の慌ただしさに追われ、流されていく毎日だと思います。こんな現状だからこそ、人との出会いを、また会話を大切にしてほしいと思います。

後輩、同僚、先輩。そして保護者、地域の方々。出会いはどこにでもあります。あとは自分自身が学ぼうとする気持ちを持てるかどうかです。

学校紹介 No.199

西予市立三瓶小学校

たかがけん玉、されどけん玉

本校は、西予市の西部に位置し、宇和海のリアス式海岸に面したのどかな三瓶町にあります。６年前には西予市が「日本ジオパーク」に認定され、三瓶町にはその一部である４億年前の地層の岩石層が隆起している須崎海岸があります。５年前に、町内の４校の小学校が統合し新生三瓶小学校が誕生しました。新校舎には、今もなお、校内に木の香りが漂い、安らぎを感じることができます。

本校では、「自分のよさを伸ばし、成就感・達成感を味わえる学びを目指す」ことを重点に実践してまいりました。

日々の学習において、「分かる授業」「できる授業」を展開し「分かった・できた」という体験を通して、自分のよさを伸ばし成就感や達成感を味わわせるのです。さらに、自分への自信へとつなげていくのです。また、遊びにおいても、「分かった・できた」という体験を通しての学びは留まることがありません。

本校では、初代校長が考案し導入した「けん玉」がその一つです。ＰＴＡで全児童分のけん玉を購入していただき、児童は、自前のけん玉を持つことができています。けん玉は、昔から親しまれ、老若男女問わず、今では「KENDAMA」として海外でも注目されているのです。このけん玉を通して、遊び心で、楽しみながら自然に、一つ一つの技ができた時の感動、そして成就感や達成感、仲間とともに上達していく喜びなどを児童に十分味わわせることがねらいなのです。それと同時に、「集中力」や「リズム感」「持続力」「想像力」を児童に身に付けさせていくので、コミュニケーション力がその場で育ち、仲間づくりに適した活動であるといえるのです。

児童は、日本けん玉協会認定の級や段の習得に加え、校内で学期に１回、児童会が主催する「けん玉集会」に向け、休み時間や自宅で練習に励んでいます。「たかがけん玉、されどけん玉」です。統合して５年、三瓶小学校の特色ある活動の一つとなりました。けん玉の持つ様々な魅力を紹介しました。ぜひ、チャレンジしてはいかがでしょうか。

（教頭　山下　秀一）

題字に寄せて

澄心静慮（ちょうしんせいりょ）

八幡浜教育会
ＯＢ
二宮　勝美

「心を澄ませ物事を深く考える」という意味です。

人は心がざわついてくると自分の立場やモノサシで相手の良し悪しを決めたりすることがあります。

感情が高ぶっている時は、なお偏った判断が加速してしまったという経験が多々あり、失敗することも。

忙しい日々の中、一日の中で数分でもいい、ゆっくりと息を吐く時間をもちたいものです。

「問題の根幹は何なのか」心静かに慮る環境も必要な気がします。

墨場必携から佳句を選び、自分自身への戒めも込めて書きました。

ふるさとに生きる

ふるさとに蘇る「里の秋」

No.101

清家　政夫 先生

訪問者
浅田　淳
（宇和島教育会会長）

清家政夫先生は、宇和島教育事務所指導主事、管理主事をされ、退職後は吉田町教育委員会教育長として私たちを指導してくださいました。さらに任意の会「誠会」の会長もされ、宇和島の教員から慕われ信望を集める大先輩です。

退職後、先生の生い立ちを伺う機会があり、先生があまりにも苦難に充ちた生い立ちだったことを知りました。

先生のお父さんは、出征後シベリアに抑留され、亡くなられました。先生は長男で９歳、下に５歳と２歳の妹さんがありました。お母さんは３人の幼子を女手一つで育てられたのです。父親は出征時「後のことを頼むぞ」と政夫少年に託されました。少年は、父の言葉を守ろうと二人の妹の世話、家事の手伝いに明け暮れました。また昼夜精魂傾け命がけで働く母親の無事を日々心痛めながら祈る苦難の幼年期となったのでした。

３年生の時学芸会でクラス合唱「里の秋」を歌うこととなりました。この歌は戦地の父を母とともに偲ぶもので政夫少年の境遇そのものでした。政夫少年はこみ上げる哀しみにうなだれ歌えなくなりました。その事情を知らない音楽の先生は彼を強く叱責されたのです。それ以来全く歌うことができない苦渋の少年時代となったのでした。

きょうだい３人シベリア墓参

貧困を克服すべく新聞配達などのアルバイトをし、有り難いことに奨学資金を得、やっとの思いで愛媛大学を卒業することができました。

歌えなくなった少年が大学生の時のことでした。訪れた大野ヶ原の中学校で、青空の下、何と「里の秋」を歌っていた生徒に「先生も歌おう」と誘われたのです。その呼びかけで共に歌い、歌う喜びを取り戻したのでした。私は何度も先生の豊かな歌声を聴き歌をとても慈しんでおられる姿を見ていましたがこんな苦難を乗り越えた末の歌声だったのかと胸震えました。

今先生はほとんどの公職を退かれていますが、睦育英会の専務理事はされています。これは吉田の篤志家による返済なしの奨学資金制度です。「私の今があるのは奨学資金制度のおかげです。私のような子どもたちを救うのが私の恩返しであり使命です。」そう深い決意を話されました。

教育者としてふるさとに深く温かく浸透して生きておられる先生の原点を教えられた思いでした。

清家　政夫　先生（81歳）
（宇和島市吉田町在住）

自動車大口団体割引保険のおすすめ

学校生協組合員様は、現在ご加入の自動車保険無事故割引から
15%割引、一括払でさらに5%割引になります。
保険料の分割払は給与引去となります。
教員OBの方も口座振替（一括払）で適用されます。

―引受保険会社―
東京海上日動火災保険（株）
三井住友海上火災保険（株）
損害保険ジャパン日本興亜（株）

お問い合わせは
愛媛県学校生活協同組合連合会
電話（089）925-0555
愛媛県教育用品株式会社
保険事業部担当　井戸・新まで

特集

私の好きな言葉

一期一会

四国中央教育会
ＯＢ
篠永　秀子

私の好きな言葉は、「一期一会」です。

「一期一会」とは、「人との出会いを大切にする」「一生に一度の出会いに感謝する」という意味です。初めて会う人だけに限らず、毎日会う人、時々会う人など、全ての人に対して、その瞬間、瞬間を楽しみ大切にするということでもあります。

私は、今までに数え切れない方々と出会っています。その方々から様々なことを学び、教えていただき、支えられて、今の私があるのです。

中学校や高校の部活動で、叱咤激励しながら見守ってくださった先生。大学の軟式庭球部で共に切磋琢磨した先輩、後輩、同期の仲間たち。38年間の教員生活で出会った素晴らしい先生方や素直な子どもたち。私の考え方や取り組む姿勢、生き方に大きく影響を与えてくれた出会いがたくさんありました。

そして、退職して教育現場を離れてからも様々な方々との出会いがありました。水引教室で30年前の教え子と偶然の再会。80歳になられても生き生きと運動されている方々との出会い。今まで苦手意識が強く縁のなかったプロのピアノ四重奏のコンサートに誘ってくださった方との出会い。今までとは違った世界がどんどん広がっています。

「一期一会」。これからもどんな方と出会えるのかわくわくしています。出会いを大切に、感謝の心を忘れず、第二の人生を生き生き楽しく歩んでいきたいと思います。

一期一会

今治・越智教育会
ＯＢ
玉井　学

「一期一会」は、茶道の心得として説かれている。

私は、「会」を「絵」に置き換え、「一期一絵」を日々の銘として使っている。「絵」の字は、「会」と「糸」から成っている。自分は、過去・現在・未来の時間軸におけるつながり(糸)、森羅万象とのつながり(糸)の中で、今生かされている。その糸を粗末に扱ってはならないと自戒している。また、心に響く出会いの瞬間を、一枚の「絵」として目に焼きつけておきたいとの願いもある。

長年、人を「人間」と記し、「人」に「間」の字を付けているのは何故か疑問に思ってきた。ある時、本の中に「間」には巡り合わせの意味もあるとの記述を目にし、その疑問は解けた。巡り合わせとは、運命的な出会い（邂逅）であり、先人は、「人として生きる上での出会いの大切さ」を説いたものと解釈している。「一期一会」に通じる教えである。

今日まで、多くの人や自然との出会いから学びを得た。また、スポーツや名曲・名画などの出会いからも感動の瞬間を得た。それら全てが心の糧となり、人生に彩りを与えてくれた。感謝の一語に尽きるが、唯一無二の宝物として大切に心にしまっておきたい。

今後とも、私の好きな「花アルトキハ花ニ酔ヒ　風アルトキハ風ニ酔フ」（榊莫山氏）の花鳥風月を愛でる心を大切にし、「一期一絵」を杖言葉に、新たな出会いに思いを馳せ歩みたいと考えている。

おかげさん

松山市福音小学校
校長
三好　建次

好きな言葉は何かと問われると、多くの人が自分がずっと大切にしている「座右の銘」について紹介するのではないかと思う。しかし、私の場合は、これぞという言葉が見当たらない。

私は、あいだみつお氏の詩が大好きである。短い言葉に、奥の深い思いがいっぱい詰まっている。私は自分と重ね合わせながら、一つ一つの言葉に共感し、自分なりの思いを広げていく。彼の詩集は、そのときそのときの自分自身を見つめ直すきっかけを与えてくれる宝箱なのだ。

「しあわせは　いつも
じぶんのこころがきめる」

この詩は、どんな立場に置かれても愚痴をこぼさず、自分らしく、自分のできることを精一杯がんばろうという気持ちにさせてくれる。

「うつくしいものを美しいと思える　あなたのこころがうつくしい」

この詩の「美しいもの」を「よいもの」や「いけないこと」などに置き換えてみると、自分はまだまだだなと改めて思う。「もっともっと自分の感性を磨きなさい。」という叱咤激励の声が聞こえてきそうである。

学級担任のときは学級通信で、校長になってからは校長だより等で彼の詩を引用させてもらってきた。たくさんある詩の中から、そのときの状況、思いや願いにぴったりのものを探すのである。相手がその詩をどのように受け止め、どのように役立ててくれるのかを期待しながら…。

立って半畳…

上浮穴教育会
ＯＢ
新谷　善弘

「好きな言葉」は何かと考えたときに、浮かんだのが亡き父の言葉でした。まだ私が学生の頃だったと思うのです

が、居間で親子二人して雑談をしていたとき、父がおもむろに若かった頃の話をし始めました。

銀行員をしていたこと、長男であったため、両親に頼まれ郷里に帰ったことなどでした。そうして、話も終わろうかと言うときに「人というものは所詮、立って半畳、寝て一畳、飯は食っても2合半なんだよ。」と言い、これは、人の物欲や名誉欲を戒める言葉であり、人は「足るを知る」ことが大事なんだと、その意味を教えてくれました。しかし、そのときは、大して気にもとめていなかった気がします。

その後、この言葉を目にしたのは、漫画「俺の空」の主人公安田一平の台詞でした。好きなキャラクターであった事もあり、改めてその意味を考えさせられました。

さて、この原稿3月上旬に書きながら、定年を間近に控え、私の教員生活38年を振り返っています。結果として、父の教えを守ったのか否か、わからぬまま終わろうとしています。しかしながら、実に多くの生徒に関わり、たくさんの感動をもらえたこと、多くの先生方に助けられながら楽しい時間を過ごせたことに心から感謝しています。

退職後の人生も、巡り会いに感謝し、マイペースで参りたいと思っています。

大洲市平野小教諭
冨永　英治

生々流転

大洲市のＪＲ五郎駅近くに「生々橋」があります。今は新しい橋ですが、それまでは明治26年に、大洲市八多喜町の庄屋、上田久太郎が私財を投げ打ち、寄付を募り、苦労をして架けた橋でした。

以前の勤務校で、この説話を道徳の地域教材に取り上げました。当然、偉人の崇高な行為に視点を当てたものでしたが、私は、「生々橋」という名前が気になりました。これも、久太郎がつけたものですが、地名に由来するものではありません。資料を調べると、「生々」という文言は「易経」の一節「生々流転」からとられたものでした。この言葉に対して、未熟な感覚しかなかった私は、「諸行無常」のようにとらえていました。しかし、民衆のために私財を投げ出してまで架けた橋名に、この意味合いは違和感があり、改めて易経の解説書を読みました。そこには、「人災や乱世、暗黒の時代も長く続くわけではなく、『生々流転』として一時も止まらないのが自然の摂理である。それゆえに、絶望的な状況であっても、それを打開しようとする力が必ず生じ、泰平の時代に向かって回復していく。（「易経」一日一言。「致知出版社」より引用）」とありました。「生々」とは、生きるために変わり続けていくこと。久太郎の真意は想像の域を脱しないのですが、人生に対する挑戦さえも感じました。当時、教師としても何となく安定していたつもりでいた私は、「それで生きていると言えるのか」と問われているような気がしました。

昨年の水災で郷土の風景も生活も一変し、人生が思いもよらない方へ進み、この「生々流転」という言葉がよみがえってきました。好きな言葉と言うには少々重い言葉ですが、自分の生き方を変えていく転機ととらえたいと思います。

祝　受章・受賞おめでとうございます

◇瑞宝双光章（高齢者叙勲）

生田　仁道様	88歳	元松山市立城西中学校長
石堂　鹿夫様	88歳	元長浜町立長浜小学校長
河端　庸雄様	88歳	元新居浜市立垣生小学校長

松山市		
伊予市		
新居浜市		

◇平成30年度　文部科学大臣優秀教職員表彰（職名等は受賞時のもの）

斧　純司様	愛大附属中学校主幹教諭	今治市
渡邉　秀樹様	今治市立日高小学校主幹教諭	今治市
田窪　直樹様	今治市立立花中学校主幹教諭	今治市
濵田　修様	松山市立味生小学校教諭	松山市
濱村　圭右様	砥部町立宮内小学校教諭	松山市
新城　茂美様	松野町立松野西小学校教諭	松野町
松木　穂高様	四国中央市立三島東中学校教諭	四国中央市
井上　佐喜様	西予市立宇和中学校養護教諭	西予市
四国中央市立三島小学校教職員一同様		

◇平成30年度　愛媛県教職員選賞（職名等は受賞時のもの）

藤井　修二様	60歳	松山市立道後中学校長
吉田　慎吾様	60歳	松山市立桑原中学校長
藤堂　浩伸様	60歳	八幡浜市立八代中学校長
松浦　秀樹様	60歳	鬼北町立広見中学校長
森実　純夫様	60歳	四国中央市立三島小学校長
緒方　義彦様	60歳	松山市立東雲小学校長
掛水　高志様	60歳	松山市立湯築小学校長
藤原　雅彦様	60歳	東温市立南吉井小学校長

松前町		
松山市		
八幡浜市		
鬼北町		
四国中央市		
松山市		
松山市		
東温市		

あんしん　むすぶ
教職員共済
総合共済
月掛900円で　12の保障
1　業務遂行に起因する賠償責任を補償！
2　日常生活で発生した賠償責任を補償！
3　地震・自然災害による住宅損害も補償！
4　契約期間1年以上で退職時にも共済金！
資料請求は下記へ。お気軽にご連絡ください。
教職員共済生活協同組合　愛媛県事業所
〒790-8545　松山市祝谷町1-5-33（愛媛文教会館内）
☎089-998-2141　http://www.kyousyokuin.or.jp/

祝　平成30年度愛媛県教育会教育功労賞受賞者

（注）年齢・在住地は、受賞時年度のものです。

河村　恭子（80歳）
生徒指導　四国中央市

▼長年にわたり子ども見守り隊の一員として活動するとともに、学校評議員として学校と地域や家庭とのつなぎ役として支援に当たってきた▼統合時から、地区教育会の中心的な役員として新たな組織づくりや事業展開に力を尽くした。

横山　泰茂（71歳）
社会教育　新居浜市

▼現職時は市教育研究会会長を務め、退職後は10年にわたり地区教育会の中心的な役員として当会の発展と充実に努めるとともに、特に「土曜寺子屋教室」の充実・発展に寄与した▼公民館長をはじめ、地域の多様な社会教育活動に力を注いだ。

越智　定志（84歳）
社会教育　今治市

▼現職時から人権・同和教育の推進に尽力した。また長年にわたって子ども見守り活動を継続し、児童の健全育成に寄与した▼退職後も社会教育指導員、教育委員、保護司、図書館運営審議委員等を務め、地域社会に大きく貢献した。

野本　静雄（82歳）
社会教育　松山市

▼退職後、幼稚園長や図書館長等を歴任し、幼稚園教育や図書館運営に尽力した▼長年にわたり、民生児童委員、社会福祉協議会役員、児童クラブ会長等を務め、地域の福祉や児童生徒の健全育成に努めた。

橋本　矩之（88歳）
教育行政
社会教育
郷土史　東温市

▼津和地島を度々取材し、古文書にあたって「『八原家御用日記』と周辺」にまとめ出版した▼「川内町新誌」の編集や東温史談会誌の執筆等郷土史保存に貢献した▼社会教育委員等の役員も務めるなどして、社会教育の充実に努めた。

伊出　博美（84歳）
社会教育
学校教育　伊予市

▼現職時から教育行政や教育研究団体の主要な役割を果たし、退職後も教育長として地域の教育の推進に努めた▼地区教育会においても副会長・会長を務め、現職とＯＢの連携を深め会の発展に尽力した。

大藤　登（80歳）
社会教育　大洲市

▼長年にわたり地区教育会の役員として主に福利厚生を担当し、組織の活性化と会員意識の向上に努めた▼大洲藤樹会の理事や民生委員、地域審議委員等を務め、地域社会の発展と活性化に努めた。

中里　悌二（80歳）
社会教育　伊方町

▼民生児童委員、心の教育相談員、行政相談委員、学校再編委員等を務め、学校教育と社会教育の一体化を図ることに尽力した▼地域の区長や教育会の会長等も務め、会の運営やボランティア精神の涵養に成果を上げた。

シロアリ　予防と駆除のご案内

大地震の際、シロアリ被害のあった
建物は倒壊の危険が高くなります。
地震対策はシロアリ防除から

友清白蟻

人と住まいの安心をサポート

信頼のスタッフが調査から防除・メンテナンスまで、トータルにスピーディに対応。安心してお任せください。

お問い合わせ
愛媛県学校生活協同組合連合会　電話(089)925-0555
または　郡市学校生活協同組合まで

足跡をつづる、私を記す、形に残す。
あなたが主人公の下ラマを未来に伝えませんか。
受賞作品多数制作
「本」づくり応援
品質・デザイン力に自信あり!
プロのスタッフが校正作業をサポートします!
プロのデザイナーがデザイン力を発揮します!
●規格・装丁のご提案　●編集方針のご提案　●レイアウト見本のご提示
●原稿作りのアドバイス　●予算のお見積り　－その他、ご相談承ります。－
自分史　作品集　研究報告　記念誌　業績集　句集　エッセイ集　写真集
ご注文・お問い合せは　印刷営業部　☎089-945-0112　FAX089-947-6073
SEKI セキ株式会社

■令和元年度公益財団法人愛媛県教育会活動方針

愛媛県教育会は、昭和41年に設立以来、半世紀にわたって本県の教育文化・福祉の向上に努めるとともに、平和で民主的な国家・社会の形成に尽力してきた。平成25年１月８日に「公益財団法人愛媛県教育会」として再出発して６年余りを経過した。この間、事業や財務管理のあり方について関係機関の指導を仰ぎながら、関連法規を踏まえ、試行錯誤しつつ公益法人としての基盤が整ってきたところである。

今後は、会員に限らず、広く公共の利益にかなう事業展開を一層充実していく必要がある。県組織と18地区教育会との意思疎通を円滑にし、行政をはじめとした関係機関・団体との連携・協働を深め、公益事業の充実・強化を目指したい。

本会の主要な公益目的事業は、

○教職員の教育研究や研修及び学術文化の振興
○児童・生徒の学びの保証及び県民の生涯学習の支援
○学校・家庭・地域社会と連携・協働して行う心の交流事業の実施

である。これらの事業の確実な実施により、次代を担う子どもたちが健やかに成長するよう、社会総がかりで取り組む教育を推進する中核としての役割を果たしたい。

12年目を迎える「えひめ教育の日」関連事業は、今までの取組を基盤に県下に「教育の日・教育月間」の意義を普及し、更なる充実･啓発に努めてまいりたい。また、子どもたちの学習支援や地域ボランティア、県民の教養を高める活動等の公益事業を一層積極的に展開することを方針とする。

■令和元年度公益財団法人愛媛県教育会事業計画

公益目的事業	①施設貸出事業	会議室貸付事業	学力向上、健全育成、教職員の資質・能力向上、家庭教育の充実、文化活動の推進（趣味講座、カルチャー教室　等）
		宿泊施設活用事業	教育活動、教職員研修　等（学習・スポーツ合宿、体験学習　等）
	②編集出版事業	教育･文化の振興事業	「文教月報」発行（年間11回、各号13,900部） 俳句・短歌・川柳等の作品募集と表彰
		学習資料の編集出版事業	学習資料編集出版（学習資料の改善、採択の充実、図書出版の開発と活用、著作権処理）
	③教育支援事業	教育研究･研修支援事業	日連教研究大会滋賀大会参加、地区教育会代表者研修会
		団体助成事業	（支援団体）・愛媛県教育研究協議会　・教科等委員会　・愛媛県小中学校長会　・愛媛県小中学校教頭会　・愛媛県公立小中学校事務長会　・「えひめ教育の日」推進会議　・無人島チャレンジ実行委員会　・坊っちゃん劇場子ども舞台芸術体験サポートシステム後援会　・愛媛ＭＰ（県民球団）学校サポート事業　・各地区教育会への委託事業（文化財めぐり、囲碁大会、川柳大会、課題学習補助活動　等）
		学術文化支援事業	俳画・水墨画教室、文教画廊展、俳句ポスト、各種資料・図書・会誌等の展示・貸出
	④地域振興事業	教育力向上事業	「えひめ教育の日」関連事業（推進大会、推進フェスティバル） 地域活性化事業（学習講座、文化講演会、講師派遣　等）
		教育相談事業	ふれあい相談（子育て相談、現職教員の悩み相談、学習支援等の悩み相談）
収益事業等	①会館営業事業	会議室貸付事業	一般企業研修会・教育関係団体理事会　等
		宿泊事業	観光目的宿泊・企業関係者宿泊　等
		施設貸付事業	教育関係団体等への事務所（愛教研、校長会、教頭会　等　14団体）
		貸店舗事業･喫茶店営業	会館利用者の食事、宴会のためのレストランをテナントとして貸し付け ロビーでのコーヒー等の提供
	②調査出版事業	編集出版事業	「愛媛県教育関係職員録」や図書の編集出版
その他の事業	会員福利事業	福利厚生事業	積立年金、セカンドライフセミナー、介護保険
		相互扶助事業	会員の慶弔と表彰…高齢者慶祝、傘寿・白寿、物故者への弔意、災害見舞、叙勲、教育者表彰、教育功労賞の表彰

いよてつ高島屋 ローズカードご入会のおすすめ

いよてつ Takashimaya

組合員様は商品※1を5%引きで購入いただけます。
売り場奉仕品、優待会、カタログ、通販販売の商品は2%引きのお支払です。

※1（特別奉仕品・生鮮食料品等の割引対象商品を除く）

お中元の期間中、「外商常得意様承りコーナー」にて、推奨品に限り推奨価格（10%引き）で購入できます。

お問い合わせは
愛媛県学校生活協同組合連合会
電話（089）925-0555
または　郡市学校生活協同組合

ふるさとスケッチ No.422

エヒメアヤメ

松山市教育会
ＯＢ
川端　一志

「腰折山」の国指定天然記念物エヒメアヤメ自生地からの眺望です。鹿島、遠くには興居島も見渡せます。

エヒメアヤメは丈10センチくらいの小さいアヤメです。エヒメアヤメの見頃はこの地方の吉野桜の花と同じで３月下旬から４月中旬頃です。桜の八分咲き頃が最適かと思います。

毎年３００人くらいの見学者が来られております。県外からも30人くらい来訪されております。

ご冥福をお祈りします

菊川	敏子様	89歳	今治市北日吉町二丁六一二六	31・1・19
牧野	光利様	94歳	西予市宇和町真土一五八〇	31・3・2
渡辺	光人様	91歳	宇和島市柿原三七一三	31・3・6
山口	雄三様	83歳	松山市衣山五丁目七三一一	31・3・9
伊賀上三津子様		61歳	松山市正円寺三丁目八一二〇	31・3・15
赤星	皓一様	82歳	伊予郡松前町筒井三九一一	31・3・22
利根	昭子様	54歳	宇和島市保手五七一七	31・3・26
西原	昭紀様	79歳	松山市高田乙二	31・3・27

ローカルトピックス

久万高原町の文化施設

久万高原町には文化施設四館（天体観測館、久万美術館、面河山岳博物館、上黒岩考古館）があります。そしてそれぞれにその道のエキスパートである学芸員がおります。日本に多々ある町の中で、このように学芸員が配置されているところは少ないのではないかと思います。

その学芸員さんたちの手で、本年２月16日には第３回ミュージアムカフェが開催されました。それぞれの専門分野を分かりやすくおしゃべりする企画なのですが、今回は県立とべ動物園から副園長の前田洋一氏をお招きして、さらに内容の深いものになりました。

カフェでは、「みんな大好物！久万高原の鉱物の話」と題して面河山岳博物館の学芸員が話した後、「とべ動物園の石事情～石の動物？エサの石？病気の石？」という講演を前田洋一氏が行いました。

星天城

天文台

今回も、楽しく聞けるアカデミックなお話になりました。

広報「久万高原」には、毎月「学芸員のつぶやき」のコーナーがあります。コーナーには、誰でも理解できるよう、また興味を持って読めるようにトピックスが書かれています。平成31年３月号では、天体観測館は「宇宙の窓」、面河山岳博物館は「カエル二種の棲み分け」、美術館は「座朱欒プロジェクト」、上黒岩考古館は「イノシシの髄」について掲載しました。詳しくは町のホームページに掲載されています。是非一度、これら久万高原の文化施設に足をお運びください。

（文教月報編集協力委員
久万高原町久万小学校長　正岡　高好）

お知らせ

◆第71回日本連合教育会研究大会－滋賀大会－（概要）

【期日】令和元年７月25日㈭～26日㈮

【会場】びわ湖大津プリンスホテル

【大会主題】ふるさとを愛し心豊かで主体的に生き抜く子供の育成～ＢＩＷＡＫＯから未来への発信～

【分科会】①教育課程　②学習指導　③道徳教育　④幼児教育　⑤特別支援教育　⑥生徒指導　⑦環境教育　⑧人権教育　⑨健康・安全教育　⑩学校・家庭・地域の連携

※第⑦分科会で、東温市立川内中学校の取組を発表していただく予定です。

【記念講演】７月26日㈮

・講師　押谷　由夫　氏

・演題　「一人一人のライフ（生命、生活、人生、活力）に寄り添う学校を創る－『特別の教科　道徳』を要として－」

俳画・水墨画教室
渡部　平人　作

積立年金制度
【拠出型企業年金保険】
現在９月１日加入日分　受付中！！
在職中に積立てを行い、保険料払込完了後、
年金を受取る制度です。
お問合わせは　公益財団法人愛媛県教育会
電話　089－945－8644
制度内容等の詳細は、パンフレットをご参照ください。　MY-CF-19-386-418303-190308-1